

静岡県地学会会員へのアンケート報告(その1)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 楠, 賢司, 和田, 秀樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025167

静岡県地学会会員へのアンケート報告 (その1)

楠 賢 司*・和 田 秀 樹**

地学会が1963年(昭和38年)に発足してからの活動は35年を超えました。その間、地球表面を取り巻く人間生活圏の変化は、1960年代後半から70年代にかけての公害問題から始まり、いまや全地球規模の地球環境問題になってきました。もちろん東海地震に対する関心は、時に強弱はあるものの常に高いものです。地学或いは地球科学は地球を知る学問としてますます重要になってきていると思います。しかし、地学会の活動がどんどん活発になっているかという点必ずしもそうではありません。学校でも、社会でも地球環境問題と言っていますが、この問題と地学会の活動とも無縁ではないでしょう。地震予知や、地震情報に地学会が無関心でいられるわけがありません。地学会にとっても、いま進められている県立博物館構想も大変重要になります。自然系博物館推進協議会との共同の活動も進めようという動きもあります。

いずれにしても、これからの地学会の活動の方向を考える上で、今の地学会の人たちが興味を持つ会の活動とはどのような事柄であるのか?会の進む方針や転換を今後決める資料として本アンケートを採りました。

平成9年秋期会員310人にアンケートを配布し、12月末を締め切りとして96人分のはがきによる回答を回収いたしました(回収率31.0%)。本稿では集計されたデータと代表的な意見を記し、次号ではこの結果から今後の地学会の活動の方針などについての総括をしたいと考えております。

調査結果

アンケートの調査項目順に調査結果を報告する。

1. 職業

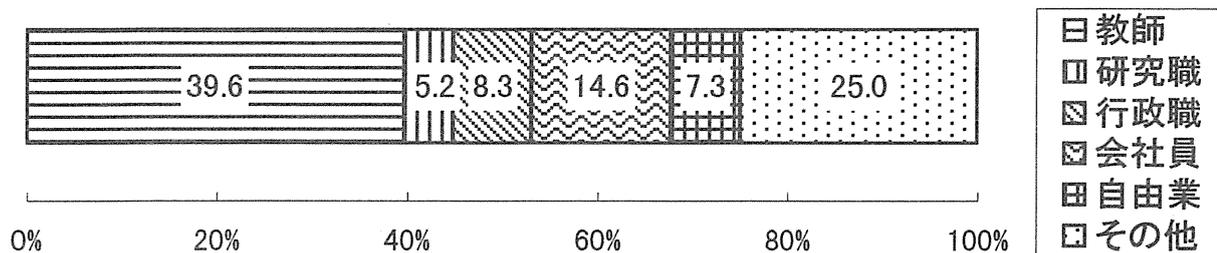


図1 職業構成

* 静岡大学教育学部 ** 静岡大学理学部

2. 年齢構成

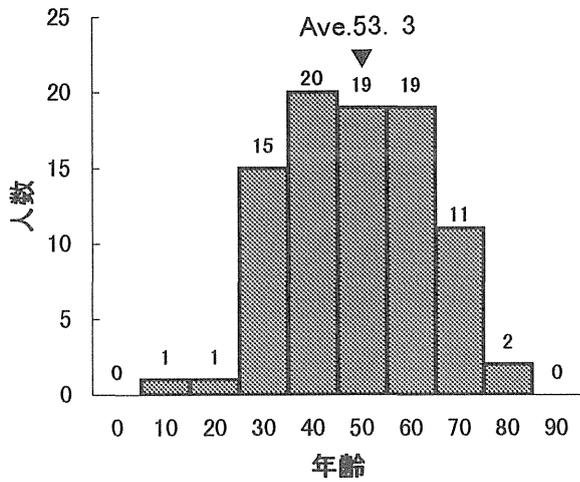


図2 年齢構成

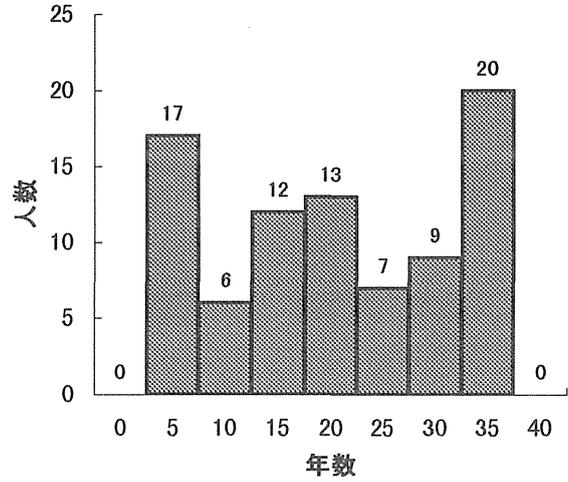


図3 在会年数

3. 男女構成

有効回答者96人の性別は、男性91人（94.8%）、女性5人（5.2%）であった。ちなみに実際の会の男女の割合は平成10年10月1日現在で会員306人中、男性286人（93.5%）、女性20人（6.5%）である。

4. 住所分布

寄せられた住所を基に東部、中部、西部、県外に分類したところ東部24人、中部37人、西部24人、県外9人の会員より回答を得た。ちなみに今回のアンケートの回収率を支部別に見ると、平成10年10月1日現在で、東部75人、中部143人、西部54人、県外34人が入会しているので東部32.0%、中部25.9%、西部44.4%、県外26.5%となり、西部の回収率の高さと中部の回収率の低さが顕著に現れている。

5. 在会年数

（図3参照）ちなみに会の設立当初（1964年）から入会されている会員が17人いた。

6. 現在の年会費について

図4参照「高い」と回答した中では3,000円が適当という意見が一番多く、「安い」と回答した中では5,000円が適当という意見が一番多かった。

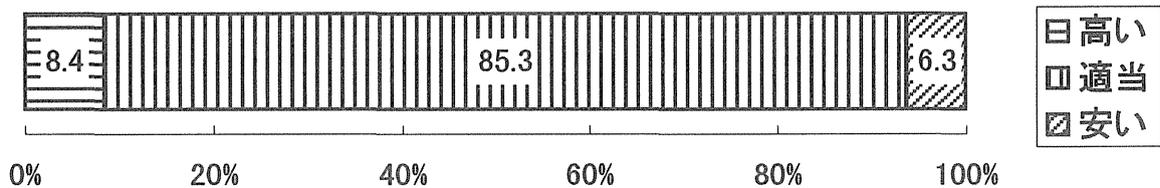


図4 現行の年会費について

7. 地学会誌「静岡地学」の記事について

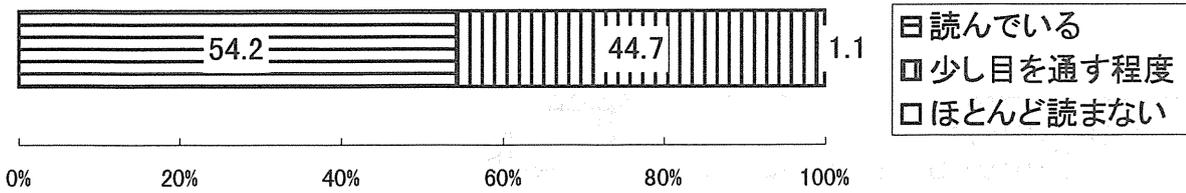


図5 「静岡地学」の記事について

8. どんな記事に興味を持ちますか。

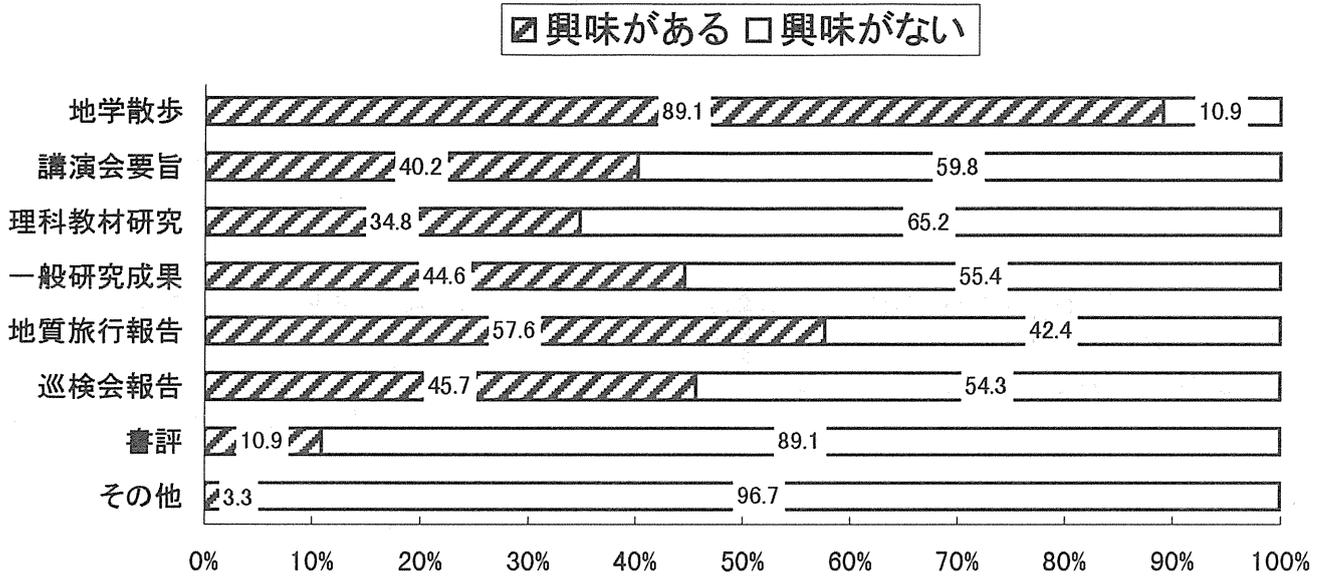


図6 どんな記事に興味を持つか？

9. 静岡地学にどのような記事を載せたらよいと思いますか？

集計量の多いものから順に並べた調査結果を図7に示す。これより“トピックス”が圧倒的であることが伺える。また目に付くものとして“研究成果（質の高い）”、“用語解説”（「静岡地学」に投稿された記事の専門用語の解説）があり、変わり種として“地学と漫画”、“県内の博物館巡り”などがある。

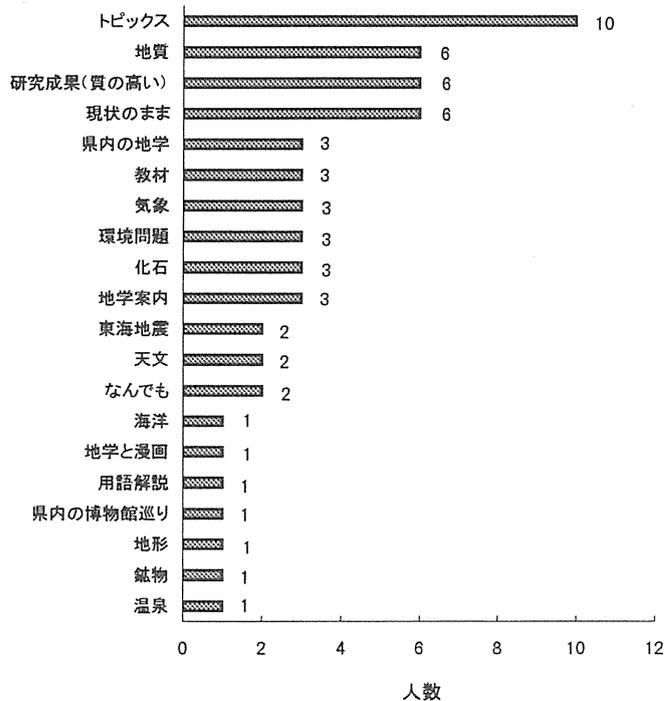


図7 「静岡地学」にどのような記事を載せたらよいか？

10. 春の総会と秋の年会について

10-1；それぞれの記念講演について

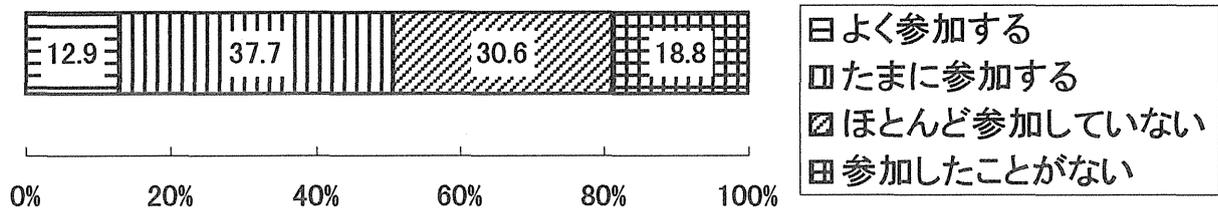


図8 記念講演の参加状況

10-2；参加しないときの理由はなんですか？

図9参照。「その他」の意見として“遠方のゆえ”、“他の行事と重なる”が多く、“足を運ぶまでもない”という厳しい意見も2、3あった。

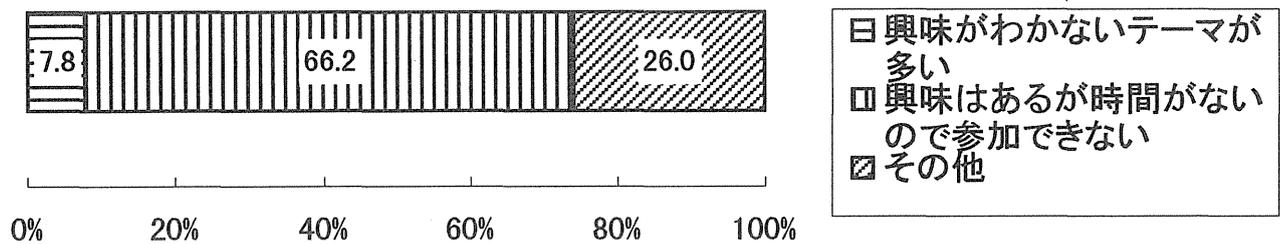


図9 参加しないときの理由

10-3；年回の時の会員の研究発表について、分野発表の方法、発表時間、発表内容等についてご意見がありましたらお書き下さい。

「発表方法」については“研究の苦心談も交えた発表”という意見があり、「発表時間」については“時間を厳守”、“持ち時間を長く”という意見があった。また、「発表内容」については“発表のために研究している”、“内容が悪い”、“焦点を明確に”、“幅広い発表”、“レベルの低いものがある”などの厳しい意見もあった。

11. 巡検会についての要望（場所、テーマなど）がありましたらお書き下さい。

寄せられた意見を基に場所、テーマ、その他に分類し、場所については更に具体的な場所・抽象的な場所に分類し表にした(表1)。複数の人の要望として目に付いたものとして“過去に行ったコース”というのがあり、その理由として「もう一度詳しい話を聞きたい」、「前回に都合によりどうしても参加できなかった」等が述べられていた。また、足の確保として“貸しバスの利用”という意見も複数あった。

表1 巡検会についての要望

場所	具体的	太田川ダムの地質・工事、春野町の地質、南伊豆、第二東名、富士山御殿場口付近、伊豆諸島、丹沢、奥多摩、水窪、浜岡原子力館、東海大地震予知センター、小笠山、工業技術院地質調査所の博物館、東京電力(株)八丈島地熱発電所
	抽象的	県内、県外、海外、どこでも、本会発行の地学案内書のコース、過去に行ったコース、鉱山、風景の科学としてとりあげられるところ、県西部(北遠地方)、シーケンス層序のわかる露頭
テーマ	地球環境問題、地震予知、化石、鉱物	
その他	一般向、専門的、露頭を通してのディスカッション、貸し切りバスの利用、夏季休業中に、現状のまま、宿泊、教材用	

12. 地学関係の話題で、最近最も興味を感じることはなんですか？

集計量の多いものから順に並べた調査結果を図10に示す。これより“東海地震”、“地球環境”の圧倒的な人気が見える。また、阪神淡路大震災および迫っているとされている東海地震の影響からか“地震防災”の人気も伺える。

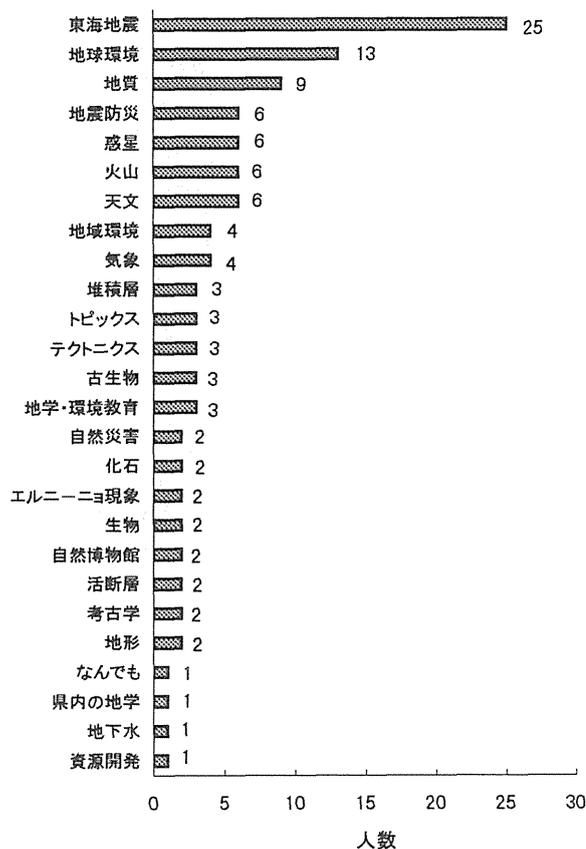


図10 地学関係の話題で、最近興味を感じることは？

13. 地学会の今後の活動ではどのようなことを期待されますか？

寄せられた意見を基に巡検会、調査・研究、作成・出版、教育、交流、情報提供・サービス、その他に分類し、表にした(表2)。特に、情報提供及びサービスに期待した意見が多く、なかでも“県立自然史博物館のバックアップ”が目立った。その他、作成・出版活動として“地学絵ハガキ”の人気が目立った。また、“インターネットを利用したフォーラム・イベントの開催”といった現在の情報化社会に則った意見も寄せられた。

表2 今後の活動の期待

巡検会	調査・研究	作成・出版	教育
滝めぐり	県西部の断層調査	地学絵ハガキ	生涯教育
シルバー用	自然災害	地学案内書	環境教育
一般向け	東海地震	地学カレンダー	地学実験
海外	水	地学案内書(学生用)	地学勉強会
県外	環境問題	地質案内/パノラマ地図	
化石・鉱物・岩石採集	自然歩道沿いの地質	地学案内書(初心者向け)	
本会発行の地学案内書のコース		テーマを作ったシリーズもの	
以前行った場所		写真集的な地学案内	
		会員名簿	
交流	情報提供・サービス	その他	
自然系博物館推進協議会	自然歩道の案内	支部別の活動	
ディスカッションを通して会員の向上	露頭の保存	地学の普及	
生物系団体	観光案内の提携	活発に	
市民	山林治水	現状のまま	
科学ボランティア・科学教育関係	現地の説明板を県に依頼	出来ることは何でも	
土木関係	県立自然史博物館のバックアップ	大学生の参加	
他団体	東海地震の情報	インターネットを利用したフォーラム・イベントの開催	
	会誌・文献の検索	会員を増やす	
	地学相談	支出を減らす	
	ボランティア	教員以外の会員の積極化	
	採集地の確保を県に依頼	会の宣伝	
	静大教官の研究紹介		
	地域活動		
	課外活動の支援		
	環境教育・問題の情報		
	論文紹介		